

令和6年度 第1回 入野小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年6月14日（金） 14時から15時45分まで
- 2 開催場所 入野小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 幸子、山田 渉、岩田 邦泰、青木 有美、中村 勝彦
上水 孝徳、古橋 明美、原田 実穂
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 徳増 宏之（入野協働センター所長）
- 6 学校 伊藤 真理（校長）、江間 慎一郎（教頭）、野中 律宏（教務主任）
深津 紘輝（生徒指導担当）、辻村 久江（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 辻村 久江
- 10 会長の選出及び副会長の指名
司会から、前年度に引き続き会長を鈴木委員に、副会長を山田委員にお願いする旨報告があり、全員異議なくこれを承認した。
- 11 議長の選出
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、鈴木委員から上水委員を推挙する旨の発言があり、全員異議無くこれを承認した。
- 12 協議事項
 - （1）学校経営方針について
 - （2）いじめ防止基本方針
 - （3）外国人児童に対する学習支援
 - （4）夢育やらまいか事業に対する意見書について
- 13 会議記録
司会の教頭から、委員総数の過半数の出席があるため、会議が成立している旨の報告があった。また、都合により議事の順番を（1）（4）（2）（3）に入れ替えさせていただく旨の説明があった。
 - （1）学校運営の基本方針について
議長の指示により、校長から令和6年度学校経営方針、グランドデザインについて資料に基づき説明があった。学校としては、子供たちにたくましさや困難を乗り越えていく力をつけるため、今年度はキャリア教育について特に意識して取り組んでおり、

野中教務主任より2年生と5年生の掲示物を用いて以下のような説明があった。

ひとつひとつの行事や学習を「価値づける」ことがキャリア教育につながる。例えば「1年生を迎える会」はグランドデザインの中の「思いを伝えよう」に、「運動会」は「進んでやってみよう」につながっている。目に見える形で掲示したりして、どんな力がついたかを意識づけることで、子供たちに自信がついてきている。今後も生活科や総合的な学習の時間をメインにキャリア教育と結びつけながらやっていく。

現在、総合的な学習の時間で6年生は自分の生き方や夢をテーマに学習をしているが、その中で話を聞いてみたい方がいるとのことで、資料にまとめた。各委員さんのお知り合いで、もし紹介していただける方がいたら教えていただきたい。

(4) 夢育やらまいか事業に対する意見書について

引き続き教頭より、今年度の夢育やらまいか事業について資料に基づき説明があった。

(3)のキャリア教育と(4)の夢育やらまいか事業についての提案に対し、委員からは以下の意見があった。

- ・夢育やらまいか事業について、大枠の内容としては良いと思う。話を聞いてみたい人の中の「市長」については、教育委員会から話をすれば可能なのではないか。(岩田委員)
- ・市長さんに子供たちが手紙を書くなど、自分たちの力で熱意を持ってやってみることが経験になるのではないか。(鈴木委員)
- ・「海外で活躍している人」というのはどういうイメージか。どんな話を聞きたいのかがもう少しはっきりすると具体的な人選がしやすいと思う。(上水委員、中村委員)
- ・以前動物園に勤めていた時、佐鳴湖の野鳥の会の方や、昆虫に詳しい方に話をしてもらった。他にも凧揚げ会は再来年150周年であるし、ボートの元オリンピック選手や佐鳴湖のゴミ拾いを毎日している方もいる。(徳増オブザーバー)
- ・「陸上選手」は、大平台にスズキアスリートクラブの寮がある。(岩田委員)
- ・夢育やらまいか事業の意見書にもあることから、佐鳴湖の自然を守るために活動している方にも話を聞いてはどうか。(鈴木委員)
- ・佐鳴湖のそばに生まれ育ち、自分たちにとっては学習の対象というよりはただ泳いだり魚を釣ったりシジミを採ったりボートを漕いだりした場所という感覚。でも今の子供たちはそういうことも知らないの、昔の自然を知っている人の話も面白いと思う。(山田委員、鈴木委員)
- ・5年生の総合的な学習の時間で入野漁協の方や、ゴミバスターズの福島さんなどの話を聞いて学習をしている。今度は5年生が下級生に自分たちが聞いた内容を教えるのもよいのでは。それはキャリア教育の「思いを伝えよう」にも結びつくの

では。(岩田委員)

- ・佐鳴湖というと湖そのものをイメージしていると思うが、子供たちが実際に遊ぶのは湖の周りの公園部分。学習の対象を湖だけでなく佐鳴湖公園全体に広げ、地域の財産として入野小の子供たちが将来そこをどうしていきたいのか勉強をし、必要な部署に話を聞きに行ったり講師として迎えたりしたらいいのではないか。例えば公園部分の話なら管理事務所、湖なら漁協やボート関係者など、まずは佐鳴湖に関心を持ってもらえる講師を招いて学習してはどうか。(岩田委員、鈴木委員)
- ・入野中のボート部や、浜松市ボート協会の会長さんの話もよいのでは。また、佐鳴湖公園の管理をしている「さなるの森パートナーズ」に佐鳴湖の魚に詳しい方がいたと思う。(山田委員、岩田委員、徳増オブザーバー)

教務主任より、6年の担任と再度相談し、もう少し具体的な形で提案できるようにするとの説明があった。

夢育やらまいか事業に対する意見書の内容については、全員異議無くこれを承認した。

(2) いじめ防止基本方針

深津生徒指導担当より、入野小学校いじめ防止基本方針について、資料に基づき説明があった。

入野小の今年度の取組みとして、まず子供たちにいじめの定義をわかりやすく伝えるため、スライドを作成して見せ、身近で具体的な例を示して話し合いをした。また、「いじめ0宣言」という活動を毎学期行い、それと平行して行きたくなるような学校づくりもすすめていく。また、大人から見ればそれくらいと思うような細かな事例でも、その場ですぐ対応するようにしていく。

先日、地域の見守り隊の方からの情報で問題の発見に至ったという事例もあり、引き続き地域や家庭とも連携して取り組んでいきたい。

これに対し、委員から以下の意見があった。

- ・あのねアンケートは記名式か。(岩田委員)
→あのねアンケートやはままついじめアンケートは記名式で、学校は誰のものかわかるようになっている。今までは生徒指導として捉えていたような事でも、初めからいじめとして捉えて対応するようにしている。(生徒指導担当)
- ・加害者側のケアもしているのか。(徳増オブザーバー)
→加害者の方にも話を聞いたり、必要に応じてカウンセラーにも対応してもらったりしている。被害者と加害者両方のバックグラウンドを考えるようにしている。(生徒指導担当)

→ただ、子供たちからの聞き取りの回数がかかなり増えており、教師がその時間をどう確保するか、苦勞している。(教務主任)

- ・朝など登校の様子を見ていても、悪ふざけが見られる。半分いじめではないかと思う時もある。いじめと悪ふざけの区別がつきづらく、判別が難しい。(鈴木委員)

(3) 外国人児童に対する学習支援

古橋委員より、外国人児童への放課後学習支援の状況について以下のような説明があった。

今年2月に試験的に3回開催し、今年度は5月末からスタートした。ボランティアは12名の方に登録いただいております、毎回7名前後は参加していただいております。利用している外国人児童は現在1～3年生の9名。2月から継続的に利用している子が多いので、学び方の流れも身につけてきている。宿題が終わったらボランティアさんとコミュニケーションをとっている。

支援をしていく上で、どの子がどれくらい日本語の読み書きができるのかがボランティア同士で共有できる時間があるとよい。また、先生方がどのように教えているのか、授業の見学などができるとよい。

これに対し、委員からは以下の意見があった。

- ・漢字の書き順や算数の教え方がわかるような、例えば漢字ドリルや算数の教科書等を1冊ずつでも貸してもらえると安心して支援ができると思う。(原田委員)
- ・先週見に行ったが、早く宿題が終わってしまう子とそうでない子の差があるように感じた。担当分け等は検討するのか。子供たちが継続して利用したいと思える環境作りをしていく必要があると思う。学校側はどこまでやってほしいと考えているのか。(岩田委員)

→学校としては読み、書き、計算といった基本的なところについて授業についていけるくらいを考えている。計算カードなど時間がかかっても自分で答えを出す練習をさせたい。ボランティアさんの話を聞く機会を持って、どうしていくか話し合うのがよいと考えている。(校長)

14 連絡事項

- ◆司会から、次回会議は7月24日9:00から開催する旨の報告があった。